

## 口頭発表A⑥

## 徳島大学の教育改善・学生支援に与える繋ぎ create のインパクト

安達道彦<sup>1)</sup>、小川貴之<sup>1)</sup>、平岩大地<sup>2)</sup>、浦邊研太郎<sup>1)</sup>、吉田 博<sup>3)</sup>

1) 徳島大学工学部 2) 徳島大学総合科学部 3) 徳島大学大学開放実践センター

## 1. はじめに

我が国の大学教育においては、学士課程の質的転換が求められており、中央教育審議会が2012年8月に発表した答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では喫緊の課題として明記されている<sup>1)</sup>。特に近年では、学士課程教育を、正課教育のみで捉えるのではなく、課外活動を含めた教育活動全体として捉える動きが見られる。例えば、愛媛大学では、学生が卒業時に身につけていることが期待される能力(育成したい学生像)として、「愛大学生コンピテンシー (Ehime University Competencies Standards for Students: EUCS-S)」を定め、これらを正課教育、準正課教育や正課外活動を通じて、学生の能力育成を推進するとしている<sup>2)</sup>。徳島大学では、学生チーム「繋ぎ create (以下、繋ぎ)」が、大学生の躍進を目的にし、主に正課外活動支援の観点から学生支援、また学生視点からの教育改善を行うことを活動の柱と位置づけている。全国的にも、学生による学生支援活動や、学生の参画を得たFD活動は増加しており、これらの活動による成果も報告されている。しかし、学生が関わる学生支援や教育改善活動には、常に活動の質を問う声が挙げられる。活動の形骸化を防ぐためにも、活動の効果や課題を検討することが求められている<sup>3)</sup>。これまで、繋ぎでは実施企画の効果検証を行ってきた<sup>4)</sup>が、これまでの活動全体の効果検証、課題、ニーズ等を検討していく必要がある。本研究は、繋ぎが活動を通して、学内の教育改善、学生支援に与えることができた影響を、繋ぎが実施した企画の参加者に対する質問紙調査をもとに分析し、明らかにするものである。本発表では、調査から明らかになった、繋ぎの企画を通して参加者が得た知識やスキル、繋ぎが抱える課題、担うべき役割・使命を報告する。

## 2. 調査の概要

2010年11月から2012年9月までの間に、繋ぎが開催した企画に参加したことがある、徳島大学の学生、教職員を対象とした。ただし、この期間中に卒業した参加者を含む。また、2012年10月9日現在の繋ぎメンバーを除く。対象者数は、学生131名、教職員28名(計159名)であり、メールにて対象者全員に質問紙を送付し回答を受け付けると共に、繋ぎのメンバーを通じての回収も同時に行った。調査期間は、2012年9月から10月で、回答数は、学生53、教職員17(計70)、回収率は、学生40%、教職員61%(全体44%)であった。質問紙の内容は、①繋ぎの企画に参加したことで、達成できた項目<sup>注1)</sup>(複数選択式)、②現在の繋ぎに不足していると思う点(記述式)、③繋ぎが担うべき役割(記述式)、④繋ぎに対する期待(選択式)である。

## 3. 結果と考察

## (1) 実施企画における成果と課題

質問紙の設問「繋ぎ create の活動に参加して、達成できたと思われる項目を選択して下さい。(複数選択式)」において、最も選択率が高かった項目は、58.6%の「人との関わりは大切であると思った」である。次に、「学部・学科を越えた友人ができた」、「教職員と交流することができた」が共に55.7%である。その他に「自分の考えを他人に語る事ができた」、「他人から何かを学ぶことができた」が続いている。このことから、異なる立場の参加者との交流が実現しており、コミュニケーションを通じた学びが起きている。一方、選択率が低かった項目は「大学に価値を見つけることができた(5.7%)」、「自分のやりたいことが見つかった・気づいた(8.6%)」、「自身の可能性を広げるための行動ができた(18.6%)」で

ある。このことから、繋ぎの企画が必ずしも大学生の躍進に繋がっていないことが伺える。

### (2) 繋ぎ create の課題

質問紙の設問「現在の繋ぎ create に不足していると思うことは何ですか？（記述式）」のすべての回答の中から、繋ぎの不足点を記述している部分を抽出し、カテゴリごとに分類した。抽出した部分は72であり、カテゴリ分類の結果は表1に表している。分類では、大きく分けて3つのカテゴリに分けることができた。特に広報関連のカテゴリでは、戦略不足を指摘する記述が多く見られていた。したがって、企画内容を適切に伝える手法やスキルの開発、新たな広報手段の開発が必要である。活動内容については、テーマや目的が不透明であるといった記述が多く見られた。今後は、企画の目的、目標の検討を十分に行い、他大学の事例研究などを行う必要がある。

### (3) 繋ぎ create が学内で担う役割・使命

質問紙の設問「学内において、オフィシャルな立ち位置を持ち、学内で学生視点から教育改善、学生支援を行おうとしている学生チーム（繋ぎ create）が担うべき使命は何ですか？（記述式）」のすべての回答の中から、役割や使命に関する記述部分を抽出し、カテゴリごとに分類した。抽出した部分は68であり、カテゴリ分類の結果は表2に表している。表2よりコミュニケーションの促進、学生との接続に関する役割を半数以上

の回答者が挙げている。具体的には、学生同士、学生と教職員間のコミュニケーションの促進や、学生と大学、学生と教育を繋げることなどである。このカテゴリには、「変化をもたらすきっかけの場」を期待する記述もいくつか含まれている。続いて、学生の積極性、自主性の向上、実行力や問題発見力等の能力開発が多く挙げられている。このことから、コミュニケーションの促進や、学生と大学、教育を繋げることをきっかけとして、学生の能力開発に繋げていくことが期待されていると考えられる。

## 4. まとめ

繋ぎの活動は本学の学生、教職員に対して、立場の異なる人とのコミュニケーションの促進、意見交換、新しい気づきの場としての効果をもたらしていることがわかる。一方で、繋ぎに不足している点や担うべき使命・役割も数多く挙げられた。特に、不足点として挙げられた「広報活動の不足」「活動内容の目的・テーマの不透明性」などの点は、公共性の高い活動を行う繋ぎにとって速やかに検討・改善すべき問題であるといえる。繋ぎ create は、今後さらに学生、教職員にとって有益な活動を継続していくために、本研究で明らかになった改善点を十分に考慮し、既存の活動だけでなく学内のニーズに柔軟に対応した新しい活動を積極的に行なっていく。

## 注

1) 項目の選択肢は、繋ぎ create が学生、教職員を対象にした企画を行う際に、参加者の到達目標として掲げている内容をもとに作成した。

## 参考文献

- 1) 文部科学省：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて，2012.
- 2) 愛媛大学ホームページ  
[http://www.ehime-u.ac.jp/education/news/detail.html?new\\_rec=9758](http://www.ehime-u.ac.jp/education/news/detail.html?new_rec=9758) (2012.11.9).
- 3) 西本佳代：学生支援活動の全国的特徴，高等教育研究叢書，112，33-42，2011.
- 4) 浦邊研太郎，福田喬也，牧迫雄也，小鳥正也，吉田 博：大学生による交流型ワークショップの成果と課題，平成23年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集，38-39，2012.

表1 繋ぎ create に不足している点

不足している点	件数
広報関連（戦略、認知度、参加者募集）	30
活動内容関連（テーマ、目的、頻度）	24
メンバー関連（知識、スキル、数）	16
その他	2

表2 繋ぎ create が担うべき役割・使命

担うべき役割・使命	件数
コミュニケーションの促進、学生との接続（学生同士、教職員、他大学、教育）	35
学生の能力開発（積極性、汎用的技能）	11
学生からの提案（教育、学生生活）	9
学生支援（学習支援、生活支援）	8
その他	5